芸振

大分県芸術文化振興会議

■発行人：仲町謙吉 ■編集人：後藤正二

（題字 首藤春草）

No.82 1991.3

もくじ

平成を文化で築く豊の国……1
基金事業アンケート…2～3
「国民文化祭・愛媛90」を視察して……4
今後の芸振の取組みについて…5～6
県洋舞界の歩み……7
事務局だより……8

平成を文化で築く豊の国

大分県芸術文化振興会議
事務局長

後藤正二

「21世紀は文化の時代」である、「これからは心の時代」である、こんな言葉を耳にするようになった。新しい社会的変動ととらえたいが、文化と心は同義語ではない。これまで長い間、われわれは「物の豊かさ」を求めて走り続けてきたが、その行く末に大きな落し穴のあることを知り始めた。これからも「物の豊かさ」を求め続けることに変わりはなかろうが、それをコントロールできる「心の豊かさ」を同時に追求していくことの大切さを悟り始めている。この転換期に当たって、ある人は「物も豊か、心も豊かな豊の国づくり」といい、われわれは「平成を文化で築く豊の国」と祈念している。

「心の豊かさ」を実現する手法は、いろいろあるが、中でも大きな力になるものは文化である。文化は、本来的には風土と歴史を異にする地域に根ざしたものである。その地域には、市町村規模・都道府県規模などいろいろとあり、わが国もまた、世界的には一地域に過ぎない。伝統文化をはじめ、芸術文化のジャンルも、これらの中に生まれたものである。

われわれは「地域文化の振興」を一つの大きな目標としているが、近頃、文化は多様に使われ、生活文化なる言葉も生まれている。しかし、各地で盛んになっているカラオケは生活の中での文化的なものであっても、文化そのものではない。この種のものを区別して考えないと、新しい落し穴に陥るであろう。

地域に根ざした芸術文化を振興しようとする時、そこには芸術文化を「演ずる人」のほかに「見る人、聴く人」のいることは、いうまでもない。前者のためには「関係団体の育成」を、後者のためには「関係機会の拡大」を推進することが、今日的課題である。この解決の前提として、わが芸術文化振興会議を強化発展させること、市町村の芸術文化連盟や高等学校文化連盟などを育成することが必要である。「ふるさと緑陰コンサート」は過疎地域に本物の芸術にふれる機会を与えた。秋の「おおいた音楽芸術週間」もすぐれた音楽芸術の鑑賞機会を広く提供している。芸振会議実施の「文化キャラバン」なども同様である。これらの事業に係って思うことは、行政も芸振会議も直接・間接に「場づくり、金づくり、人づくり」を推進することが大きな課題だということである。

すぐれた芸術文化を「見る聴く演ずる」ことによって、文化的感性は高まり、結果として人びとの心を豊かにする。われわれは芸術文化の振興を通じて、新しい豊の国を再構築したいものである。

脇　正人（大分県美術協会副会長）

基金事業アンケート

今から６年前の昭和60年に、県条例を設け７年がかりで３億の金を集めた『大分県芸術文化基金』が生まれた。その年から、利息を『大分県芸術文化振興会議』が補助金として受け、その約半分ずつを団体の事業補助と芸振直営の基金事業に活用してきている。

その基金事業とは『ファミリー芸術劇場』『学校巡回公演』『文化キャラバン』などの名称で優秀な実績のある『芸振の加盟団体』による公演、展示活動を通じて地域の文化振興に努めるものである。

このうち最も新しい平成元年度事業について、これを観たり聴いたりした人々に感想を述べてもらったアンケートがあるので紹介したい。

6月20日

山国町社会福祉センター・文化キャラバン

グループUNO

生の声、音を聴き、見ることは素晴らしい。

独唱を聴く機会が少ないのでもっと多く企画してほしい。子どもの親しんでいる曲を組み入れていたので、なお良かった。

7月15日

直入町中央公民館・ファミリー芸術劇場

県民オペラ

農山村の地に文化を導入し、子どもに見聞の機会をもたせてくださったことはありがたい。今後もお願いしたい。

児童生徒を繰替授業で全校全観覧したが、大変素晴らしくて、圧倒されていた。

7月16日

中津市今津小・和田小・学校巡回公演

大分大学混声合唱団

まず、子供たちを迎える、別れる、それらの方法等、企画がなかなか良かった。歌声が素晴らしいもので、再来を希望する。できれば教科書の中の曲をもっと入れてほしいものである。

8月7日～9日

三重町公民館・文化キャラバン

県美術協会

作品鑑賞は中央だけでなく、地方をより多く開催地として企画されることを希望する。

8月21日

安心院小・中学校・学校巡回公演

大分県洋舞踊協会

暑い季節であったが、演技が良かったので鑑

賞の態度は良かった。同世代の子供達が努力し挑戦していることを目にし、子供達も感動した。できれば高校以上の高いレベルのものも見たいものである。

8月26日

大田村山村開発センター・学校巡回公演

大分マンドリンオーケストラ

校歌などをとり入れて親しみをもたせる工夫が良いし、児童生徒に適している曲が多くて良いが、なお聴衆者と共に歌う曲を計画し、共演曲を事前に知って練習ができればよかったと思う。

9月18日

耶馬溪町中央公民館・学校巡回公演

エリカ・フラウェンコール

人々の心を和ませ、次第に美声によって強烈に感動させた。地元ママさんコーラス「コールしゃくなげ」との共演で一層盛り上がったようだ。そしてコーラスの良さがよくわかった。

11月11日

山香町立立石小学校・学校巡回公演

大分県人形劇サークル

児童への語りかけのうまさに感心させられた。人形づかい・話し方がうまいので児童はメルヘンの世界にとけこんでいた。お願いとしては学校公演は平日にしてほしいものである。

11月18日

大野町解放会館・文化キャラバン

大分県庁職員吹奏楽団

管楽器の気迫ある演奏で楽しかったが、社会人向けの曲をとり入れてほしい。

また、児童・生徒にはプログラムの点で事前指導を行ないたい。

11月25日

武蔵町中央公民館・文化キャラバン

大分中央合唱団

本物の合唱を聴いた思いであり、このような良いものを、多くの学生・若者にもっと聴かせたい。今後も度々計画してほしい。

また曲目は、子供にも高齢者にも親しまれたものを配慮されて楽しかった。

『国民文化祭・愛媛90』を視察して

常任理事　藤　原　嘉　久

「架けよう＝文化の橋・交流の橋」のスローガンを掲げ、第５回国民文化祭・愛媛90が平成２年10月19日から28日まで愛媛県全県下で催された。

国民文化祭はひとことで申せば、〝文化の国体〟であり、昭和61年に東京都の第１回を皮切りに、熊本、兵庫・埼玉と続き、愛媛で第５回になる。国民文化祭の趣旨として要項には、『近年、急速に高まっている国民の文化活動への参加意欲に応えると共に、国民の文化活動の水準を高めるために開催する全国的規模の文化の祭典である』と述べている。

まず、10月19日のオープニングパレードを参観した。松山市の大街道（おおかいどう）通りにくりひろげられた全国各地に伝承されている民俗芸能（12団体）を始め、地元愛媛県の児童・生徒や官公署のブラスバンドと郷土芸能のいろいろ。加えて、海外のタイ、オーストラリアの民族舞踊団の華麗な行進はまさに圧巻であった。

このパレードは市中に進んで、メイン会場の愛媛県民文化会館が到着点である。県民文化会館は市の中心に近く、収容人員は4000人、広場も十分あり交通の便もよい好条件を備えた立派な施設であった。

愛媛国民文化祭には、大分県から日田祇園山鉾振興会を始め、11団体234名が参加、それぞれのジャンルで大分県芸術文化活動の成果を披露した。その中では、松山市を中心に今治市、宇和島市の３都市において県出演者の熱演ぶりや、展示部門の出品作品を鑑賞した。詳しく述べる枚数がないのが残念ながら、いずれのジャンルも他県のレベルに比べて遜色のない見事な出来ばえが印象に残り、甚だ意を強くしたところであった。

昨年12月の「大分県文化を語る会」に於て、平松知事は「平成10年にはぜひ国民文化祭を大分県で開催したい」と強い意欲を示された。大分県はいま、〝豊の国文化創造会議〟がまとめた指針に沿って、着々と具体的な文化施策の提案と実行が進もうとしている。

その母胎でもある大分県芸術文化振興会議の事業活動と、文化基金による助成・育成も軌道にのってきたところである。国民文化祭の趣旨である「文化活動への参加とその水準を高める」この２つの柱へ向けて、各個人、団体共に一層の精進を期待するものである。

[redacted]

今後の芸振の取組みについて

〈団体代表者に聞く〉

文芸

県歌人クラブ事務局長
日　野　正　美

久住町添ヶ津留に、丸山千代子さんというお年寄りがいる。わが歌人クラブの会員である。住いが、熊本県阿蘇郡と接しており、県境を跨いで阿蘇が４人、大分県側が３人で短歌を作っている。『せせらぎ会』という。「皆が先生で生徒。会が終れば、手作り持寄りのお茶会……毎月が待遠しいボケ防止のお楽しみ会」という。

歌人クラブの活動は、このような些細な活動をも認めあい、繋ぎあっていくことも目的の１つと思っている。それが少し拡がれば、文化の底辺が少し拡がり、内容が高まれば、文化の厚みが少し加わってゆくと思うからだ。大変で、決して目立ちはしない事だが。

発足以来、目に立つ芸術文化の振興に取り組んだ芸振が、少数の逸材を育てることから、地辺でお遊びとして楽しんでいる多数の生活者の文化活動へも目を向けることを期待する。

（[redacted]

美術

県美術協会書道部
事務局長
牧　　泰　正

1、芸振は、全県の文化面興隆の使命を担って向後の10年、20年を見据えた活動をしていることを県民に知らせることである。

2、文化面の関係者のみでなく、これ迄の「静して待つ」みせ方から「動いて参加していただく」演奏、表現、展覧方式で全県に浸透していくような活動をすることである。

3、県勢を産業と文化の二面から考えるならば、個人会員増を図るとともに、会員各自の創作力を高めることが肝要である。

[redacted]

音楽

県合唱連盟理事長
土　谷　正　公

大分県内における合唱活動は少年少女をはじめ、おかあさんコーラス等多岐にわたり、質の向上と相俟って、今盛んである。社会一般にはそのような傾向にある中で中学校や高等学校における合唱活動は他県と比べても今ひとつ伸

び悩んでおり、関係者共通の悩みとなっている。「芸振」の存在が芸術・文化に関わるものの心の拠り所とすれば、直接若い文化の担い手を育てる教育現場にもその存在性を積極的に発揮していただきたいと思う。

舞踊

県民踊連盟会長
伊　坂　香　里

湾岸戦争も終り、地球に平和が戻りつつある。過去に戦争を体験した私には平和という言葉がひしひしと胸を打ち、平和の尊さを痛感する次第である。平和のよろこびは踊りに表現されている。民踊の交流によって平和の心を広めることが出来たなら、こんな素晴らしいことはないだろう。最近は県芸術文化振興会員の方々が外地に行かれ、文化交流に尽力されている。大変喜ばしき事である。私共民踊も今年は各地方の土地に根づいた民踊を尋ね古い伝統を学び新しい発創にとりくみたい。まず九州の民踊（沖縄おどり）、北陸地方及び北海道の（アイヌ踊り）等々振興会員各位の絶大なご後援を切にお願いする次第である。

能楽

大分喜多会会長
幸　　利　雄

物の豊かさをもたらした高度経済成長期から低成長期へと移行した今日、生活水準の向上、併せて自由時間を多くもてる現在、そこには高度成長期に忘れがちになった心の豊かさと、文化に対する関心が高まってきた。そうした中で県芸術文化振興会議の果した役割は大きく、これまでのご労苦に心から敬意を表する次第である。

さて、世界情勢は東西ドイツの合流とイラクと他国籍軍による湾岸戦争には国民全体の心が大きく揺れ動き、特に青少年には愛情の欠如からと思われる犯罪が多発している。この時期に青少年の心にうるおいと、やすらぎを与える古典芸能である能楽に触れさせ、日本の文化に対する理解と道徳教育にも役立つと確信しているところである。

しかしながら、能楽は座る事が基本となるため、いくつかの問題があると思うが、詩吟が高校の教科に導入されている現在、希望はあると考える。

ただ能楽のみでなく大分県芸術振興の一翼として、底辺の拡大を図りながら文化の香り高い豊の国づくりに携わっておられる知事を始めとし、各関係の方々に心から感謝申しあげる次第である。

児童文化

県児童文化研究会長
首　藤　悦　爾

大分県児童文化祭は、毎年県下各地を会場に、賑々しく公演される。昨年は湯布院町、今年は玖珠町で27回目を迎えるまでになる。

- お話を聞くのが好きな子ども。
- お話をするのが好きな子ども。

こんな子ども像を描き、見たり聞いたり語ったりの楽しいひとときが過ぎる。

そこに集う、心の通い合った子ども達の中から、豊かな想像力と、人間としての情感をもった子どもが一人でも多く育つことを願ってやまない。

県洋舞界の歩み

荒武久美子バレエ研究所　荒　武　久美子

荒武久美子バレエ研究所は、昭和27年佐伯くるみ会として誕生しました。バレエの好きな人達が集まり、現主宰者の母である荒武ヤスエが代表者となって、他県より教師を招いてのスタートでした。この時、私は最年少で入会しました。当時は、レッスン室など無く、学校の教室を借りたり、公民館を借りたりで、たびたび移動しました。もちろん固定されたバーもなく、鏡もなく、レッスンの前に机を運び、終ると元の通りに並べなければなりませんでした。洋裁学園の時には、まず床に落ちている針を捜すことから始めました。そして音楽ですが、生徒のお母さん達が順番に係となって、蓄音機のネジと、太いレコード針をレッスン中に何度も巻いたり、取り替えたりでその都度休んでのレッスンでした。やがて電気蓄音機となっても針が飛ばないよう膝の上に抱える係が必要でした。発表会は会場がなく、第１回は中央館という映画館で行いました。照明は市内の電気屋さんのおじさんで、その時の先生は男の先生でしたが、照明が気に入らず、よく大きな声で怒っていました。今は県下のどの市にも大きな立派な劇場ができ、照明も専門の方がいて、希望通りの舞台作りができます。その時の写真は残っていますが、どの様な舞台だったのでしょう。観てみたいものです。昭和35年頃には、本当のクラシックバレエを学ばせたいと、当時としては異例の東京バレエグループの故・太田招子氏と横井茂氏を招き、２年間毎月１週間滞在してもらって指導を受けたりしましたが、その後来ていただいた先生方は３氏変わり、私が高校生になった時には、大分市よりみえていた先生が忙しくなり、代教となりました。この時15歳でした。学業の傍ら３年間生徒を指導し、大学進学と同時に上京。東京中野の笹本公江バレエ学園マスタークラスに入園、卒業と同時に帰伯して、現在の名称に変え、主宰者となりました。昭和44年より毎年発表会を開催し、２年毎には東京より男性舞踊手を招いて、大分市・佐伯市・延岡市の３市で、合同巡回発表会を開催。古典バレエ全幕「コッペリア」「くるみ割り人形」他に白鳥の湖２幕、オーロラの結婚を上演、本人自ら主役を務め、また「なつみの虹」「おやゆび姫」等の創作バレエも発表しています。

また、東京や神戸のコンクールにも意欲的に参加、大分地区から、当研究所から、世界にはばたくバレリーナを育てたいと夢を描いています。

事務局だより

基金運営協議会開催

芸術文化基金事業の円滑な計画運営を図るため、芸振会議会長の諮問機関として設置されている基金運営協議会の新しい委員が、下記のとおり決まった。

そして去る２月21日、平成２年度の基金運営協議会が開かれ、平成３年度の事業概要などについての審議が行われ、諮問どおり答申が行われた。

大分県芸術文化振興会議基金運営協議会委員

	現　　職	氏　名
学識経験者	大分経済同友会代表幹事	安藤　昭三
〃	大分合同新聞社常務取締役	田中　康生
〃	大分県小･中学校長協議会会長	長嶺　次生
〃	国際ソロプチミスト大分会長	日名子素子
〃	大分県中小企業団体中央会会長	山崎　正巳
〃	大分県商工会議所連合会会長	吉村　益次
〃	県立芸術短期大学学長	安永武一郎
〃	県立芸術会館長	嶋津　文雄
行政関係	大分県総務部長	帯刀　将人
〃	大分県教育委員会教育長	宮本　高志

（平成３年２月１日：順不同）

「文化を語る夕べ」今年も開催

昨年に続いて今年も12月22日臨時総会の後、午後５時から大分市の市町村会館２階ホールに約171人の人々が集い「文化を語る夕べ」を開催した。

この会は芸術文化関係者が「お互いの組織の交流と刺激」をめざして開催したもので、仲町会長、平松知事、宮本教育長からそれぞれ挨拶。続いて地域文化功労者、芸術文化受賞者の紹介並びに海外派遣研修者の紹介を行った後、午後８時まで、今年の文化活動などについて和やかに懇談した。

第６回園田高弘賞ピアノコンクール

若手のピアニストの育成を目的として、昭和60年から開かれている園田高弘賞ピアノコンクールも今年で６回目をむかえ、大分市コンパルホールにて、11月16日に予選会が、11月18日に本選会が開かれた。

今回は前回にひきつづき近隣諸外国からの参加を募るとともに、日本国内での応募規定を前回より拡大し関西以西とした。

また本選会のピアノ協奏曲では、ポーランド室内管弦楽団が出場者と協演し、素晴らしい演奏を聴かせた。

園田高弘賞には中国の周挺さん、大分県知事賞には同じく中国の江晨さんが選ばれ、それぞれ受賞した。また準園田高弘賞と園田高弘賞奨励賞には木村綾子さん、大分県知事奨励賞には長尾美由紀さん、そして園田高弘賞特別賞に泊美佐子さんが選ばれた。

なお優勝者である園田高弘賞受賞の周挺さんを紹介する優勝者演奏会を11月19日に福岡市の電気ホールにて行ない好評を博した。